

# 令和3年度まちづくり委員会最終報告書

令和3年度まちづくり委員

楠 憲子

## まちづくりまつりについて

### コンセプト

### について

個人の活躍の場の増加や多様化により子どもたちも学年を超えて交流できる子ども会などへの加入率が減少している。また、大人も安心安全で便利な暮らしである現代は、家電普及や交通網や土木整備が整っていない不便だった時代に比べて隣近所で助け合いながら暮らすことが減少している。かつて、そういった暮らしをしてきた高齢者ですら、便利で娯楽が手軽に手に入る現代では交流は減少傾向にある。

しかし、どの時代においても、自然の驚異は人の生活にとって抗う事の出来ない大きな災害をもたらす事がある。果たして、いざその時になって初めて手を取り合い助け合うことができるだろうか？そんな、「いざ」に強い地域を作るにはどうしたらよいか。まずは、「お互いを知る」年齢や性別、身体能力や考え方。触れ合うことで互いを知り、同じ地域で過ごす人を身近に感じる事が肝要である。

と、ここまではよく言われる「世代間交流」にまつわるありきたりなコンセプトであり、随分と踏襲されたものであると感じる。平素の「まちづくり」では市でも町でもグループでも、このことを踏まえてイベントを練られていることはよくある。今回は「コロナ禍において」が肝である。先に述べたとおり、現代社会において「世代間交流」が難しくなっている事に加え、令和2年1月から世界を脅かす未曾有の災害といってもいい「新型コロナウイルス」による社会の停止が起こった。起きた直後は、未知との遭遇にマスクやトイレットペーパーがなくなり大変な騒動で、慣れない感染症予防や毎日更新される恐ろしいニュースにざわめくばかりだったが、新しい生活様式に人々が慣れ、また物資の供給も日常の流通と価格を段々と取り戻してきた。しかし、取り戻すことが難しいものがあった。「交流」である。新しい生活様式の要項にも挙げられている通り「ソーシャルディスタンス」は未だ感染症予防において、重要であることから解除されず、楽しみにしていたお祭りや運動会などの大きなイベントは軒並み中止となり、それらの機会を利用して集まっていた仲間同士の交流はなくなってしまっていた。まちの人々の心までもが「ソーシャルディスタンス」してしまっている状態に、暗く沈んでしまった顔には笑顔が難しい。確かに、知立市が主催するよいとこ祭りや知立の伝統行事である知立まつりを開催すれば、平常時であれば2万人を超える市内外の利用者<sup>\*1</sup>があり、人ごみによるクラスターの発生リスクと利用者登録が難しく、万が一クラスター発生した際の追跡はかなり難しいと言える。よって、軒並み中止、或いは関係者のみのごくごく限られた中での開催は市中の蔓延を防ぐためには知立市の判断は国や県のガイドラインにのっとったものだといえる。しかし、そのままでは、市民の暗く沈んだ心の問題が解消されないままである。私たちがまちづくり委員会を拝命した頃はそんな背景であった。

<sup>\*1</sup>愛知県観光レクリエーション利用者統計 平成30年7月 愛知県振興部観光局観光振興課より参照

<p>地域まつり</p> <p>について</p>	<p>知立市の特性として世帯数 32,703 人口 72,086 人<sup>*2</sup>、総面積 16.34 km<sup>2*3</sup>でコンパクトかつ人口密集度が高い土地柄である。町別あるいは地域別単位の開催は、徒歩や自転車などで気軽に参加できる地域住民が多いので有効であると判断した。知立市には西町に所在する知立神社及びその周辺で行われる国の重要無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産に登録された「知立まつり」。平安歌人の在原業平が詠んだことでも知られる、五千円札の裏にデザインされているかきつばたを楽しむ「史跡八橋かきつばたまつり」。2014 年より駅前から市役所に移転した夏祭りの「知立よいとこ祭り」。どのイベントも市民にとって楽しみにしている市の行事である。しかし、新林町のように開催地から距離があったり、動員の多いイベントは子どもや高齢者、若い子どもを連れている市民にとって、移動面や混雑に対する対応など参加しづらい。徒歩でも参加できる距離にある慣れた土地勘のある会場で、目の行き届くミニマムな規模のまつりであれば、参加者の負担が少なく楽しみを得ることができる。また、ミニマムなまつりの特性を生かし、改めてその地域の特性を生かした内容であったり、生活や将来に向けて必要な情報の提供などを、手軽に手に入れられる内容が好ましい。</p>
<p>新林町</p> <p>について</p> <p><sup>*2</sup>知立市 HP 令和 3 年 11 月町別人口統計より参照</p> <p><sup>*3</sup>知立市 HP 知立市の概況より参照</p>	<p>研究内容の選択会議にて地域活性化による世代間交流の提案がされたとき、長く新林町内会事務員として勤めさせていただき、この春に引退したばかりの私の脳裏には真っ先に新林町の皆さんの笑顔が浮かんだ。新林町は市制と同じ年に西中町から独立し、歴史的にも比較的新しい人たちが古くから住む人達と手を取り合って大きくなっていったまちである。秋には町内を練り歩くお神輿は厄年会、子ども会、幼児神輿と伝統を育む団体も盛んで、シニアクラブ、生涯学習、サロン、趣味の同好会などの活動も活発である。その各種団体をまとめ上げる町内会は、協議員さんや組長さんのお力添えのもと、町内会行事や市の開催するイベントにも積極的に参加者も運営動員も非常に多い町内会といえる。代表的に挙げると、7 月末に行われている納涼祭は 2 日間でのべ 1,200 名以上の参加者が、新林町盆踊り育成会が踊る盆踊りをお手本に櫓に上げられた太鼓の音色に合わせて踊り、厄年会やソフトボールチームジョイントクラブや神社係、シニアクラブが販売する飲食を楽しみ、会場には子ども会が納涼祭に合わせて描く色とりどりの告知ポスターが花を添える。また、町内の企業協力のもと提灯などの電飾が施され、掲示板や櫓が設置され、協議員を中心とした実行委員が会場の飾りつけの準備や当日の運営や警備を担い、町内が一丸となって開催される。秋の文化展では、町内の 70 名ほどの一般応募と、子ども会・新林保育園・知立老健・サロンなどの団体作品による 150 点もの作品を見ようと、二日間で町内外から延べ 220 名ほどの来場者で賑わう。この運営についてもたくさんのまちの団体や有志が展示や呈茶、体験コーナーを運営している。また、町内会主催以外にも神明社・厄年会・子ども会・幼児神輿が合同で開催する秋の例大祭における町内お練り歩きでは、町全体がお祝いムードに包まれ、それぞれの団体が引く大小のお神輿に町の住民らのご祝儀を渡すと声高らかに言祝ぎの口上と「わっしょい」が響き、茶野ふれあい広場で行われる餅投げではこぞってくじ付きの餅を拾う住民の楽し気な笑顔でフィナーレを迎える。そんな、伝統と文化を住民の笑顔の為に活動できるととても素晴らしい町であるとおもう。</p> <p>また、数値的に見ても世帯数 2,345 世帯、人口 5,576<sup>*2</sup>であるので、私たちの提言通り知立市が各町内会や地域と協働しながら毎月どこかの町で「まちづくりまつり」を開催した時に、ちょうど 1/12 の人口に値するので、モデルケースとして開催するのにもちょうどよいと判断した。</p>

<p>開催日 について</p>	<p>11月末～12月初旬を目標に開催日の日程を含め、町内会の3役様に企画説明と、ご協力をお願いに伺ったのが6月で約6か月間のゆったりとした準備期間を設け、町内会様の行事スケジュールや、公民館の空き状況を鑑み開催日を決定した。</p> <p>開催日の決定をした6月は、今後の感染症拡大の状況は皆目見当もつかず、開催1か月前までに状況が急変する事態になれば、開催は延期・中止いずれかになることも含めて会場や設備などを無償提供して下さった新林町内会様には改めて感謝したい。新林町内会様に於いても、住民の暗く沈んだ気持ちの変化には大変心を痛めておられ、何か元気を取り戻すものがあれば、とのお気持ちをシンクロして頂き、その思いが開催の後押しになった。決定後は全体会議を2回新林公民館で開催し、その準備についてのご協力を全面的に頂いた。</p>
<p>各部会 について</p>	<p>開催決定後は、部会の設立を行った。大きく分けて「ステージ部会」「マルシェ部会」「展示部会」の3部会。その他、部会以外の仕事割は「会場飾り付け」「ポスター展示物作成」「受付」「会場警備」「出演者・参加団体交渉」と細分化し、コロナ禍でなかなかやって作業しづらい中でもSNSグループ通信を利用し連絡を取り合って進捗確認をしながら行った。「マルシェ部会」については、新林町生涯学習手芸教室代表の野村様をはじめとする会員の皆様のご協力を得て、皆様の活動日にお邪魔する形で3回の会議を重ね、出品品目の決定、納品、値付けの定義などの話し合いを重ねた。</p>
<p>ご協力者様 について</p>	<p>会場と机や備品などを無償提供して下さった新林町内会三役様。米袋や神社の鳥居の目印作成など更には当日の警備運営までしていただいた昨年度区長の山田様。前日の朝早くから通院の都合をやりくりして準備を指揮して下さった手芸教室の野村様、及び作品の手配や作成、準備にご尽力いただいた教室会員の皆様と有志の壁谷様には当日の販売スタッフとしても参加して頂いた。出品する野菜をお声がけして下さり、トラックで搬入して下さった市議会議員の神谷様。同じく新鮮で珍しい野菜を提供して下さった副区長の大澤様。試験で疲れているのに駆けつけて受付嬢として花を添えてくれた神谷さん。急なお願いに二つ返事で寒く雨降る中警備をしていただいた島袋様。取材協力して下さった、キャッチネットワーク様、知立くらしのニュース様。</p> <p>まつりそのものを一人一人の温かい心で作りに上げて下さった。本当に心から感謝申し上げます。</p>
<p>運営 について</p>	<p>【会場づくり】事前にデータ作成し、会場内の「立ち入り禁止」などのPOPや、ポスターは協働推進課が協力して下さり、会場を華やかにかざることができた。また、防災会の啓発で配布する資料などを事務局永田氏の手配し、運んで下さった。阪野委員が手製した折り紙の飾り物が想像以上に温かい雰囲気でもよかった。アコーディオンやマジックなどのふんわりとした内容にマッチしていた。本来ならば予算購入しなくてはならないところだが、無償提供いただいた。ポスターなどの掲示に使う養生テープなどの資材は、私が持ち出した。他にも備品類は全て用意した。消耗品などはどんな時も使用することがあると思うので、協働推進で準備し、提供しないと持ち出しになる。</p> <p>【受付】感染症罹患追跡の為の名簿を準備した。市に提出、会場をお借りした新林町、委員会がそれぞれ保管して以後一定期間保管されている。熱の定義は平素より1℃以上高いときは入場禁止とし、平熱は個人差があることから一律体温ボーダーにできなかった。赤ちゃんでも記録を書いて頂くことで、管理がきちんとできたと思う。当初の予定である運営も含め100名というのはほぼほぼ的中しており、参加者合計103名であった。うちお客</p>

様が 65 名、ステージ出演者様が 10 名、展示が 6 名、運営 22 名(うち委員は 5 名)。コンセプト通り約 100 名の人を笑顔にできたことが喜ばしい。感染症予防対策として選挙の時に使用した鉛筆を 100 本永田氏に手配して頂いた。消毒する手間が省けてよかった。

【片付け】

当日の片付けは参加者全員で復旧作業にあたっただき、あっという間に現状復旧でき、感謝しきり。

展示棟で使ったパネルは前週に新林町内会様が社協からお借りしたものをそのまま残しておいていただき、スライドで委員会が借用することを社協様がお許しいただいたので、大変助かった。返却は、不慣れな服部委員と私だけでは心配だったので、山田様に手伝って頂いた。頼り切りで感謝しかない。

【宣伝】今回のコンセプトである地域に特化したイベントである事を大切に、事前告知は SNS や広報などで宣伝せずに、新林町内会回覧板と、町内会加入のない人でも見られるように町内に設置されている掲示板のみにすることで、新林町民以外の参加者が殺到し、町民が楽しめない、駐車場が少なくて入れない。などを防いだ。当初の予定では 11 月 2 回目回覧板の前に 1 回目の回覧板にも載せる予定で回覧板も作成して協働推進課に提出していたが、認識違いからその回覧板が回覧されることはなかった。結果、イベントの周知が行き届かなかったことが残念。当日回覧板が届いたという住民もいた。

【事後周知】今回の研究が市内の各町内会や地域でも参考にして実施して頂けるよう、事後宣伝をした。キャッチネットワークに取材をしていただき、4 回にわたり放映され、ご覧になられた方からは、「地域の特色が良くできていて、また開催してほしい」との感想を頂いた。知立くらしのニュースにも取材をしていただき、1 月の掲載予定である。

【広報】市民が一番よく目を通す情報として広報ちりゅうがあるが、事後の拡散目的の掲載を計画したが、当日の運営は 5 人の委員しかおらず、全員が余裕のない状況で当日の記録は出来そうにないと判断し、協働推進課に取材依頼をしたが、「**広報ちりゅうにつきましては、市政の情報発信や事業の開催案内をしており、要望を受けて、広報担当が取材に伺うことは原則実施しておりません。市民への周知として広報紙へ掲載を希望する場合は、事務局（協働推進課）から掲載原稿を提出する必要があります。掲載を希望する場合は、掲載したい内容や文面を作成いただき、事務局（協働推進課）へご提出いただきますようお願いいたします。なお広報原稿の提出期限は、2 月号は”12 月 8 日”、3 月号の場合は”1 月 12 日”です。上記期限までに内容を精査した原稿を提出する必要がありますので、あらかじめご承知おきください。**」と、返答を頂いた。よって、委員・新林町内会様・出演者・ボランティア・協働推進課で開いた合同会議の資料内に、広報ちりゅうに掲載するのは人員不足から難しい事を説明するために上の文を掲載するので、説明を求められたらご説明ください。とすると**広報ちりゅうは、主に所管課から原稿をもとに記事の作成、発行をしています。そのため実績の周知として、事務局（協働推進課）から広報ちりゅうの掲載依頼を提出することは可能です。原稿作成につきましては、掲載したい情報やデータなどをいただけましたら、頂いた内容を参考にして事務局が素案を作成することも可能です。**と、返答が来るなど、話すたびに話が噛み合わず、一転一転していくことに疲弊した。当初会議には参加しないというので、委員で会議を開いて計画を立てた後に、「あれはダメ、ここは修正して」との連絡が来たり、そういった取り違えが無いように会議に参加してもらおうとその場で今まで決まっていたことが覆ったりと、月 2 回の会議と議事録の作成や計画書や回覧板やポスター等の作成で大変なのに、委託と謳いなが

	<p>ら最終的には市が所管している委員会なので市の言う通りにしなさいという制約が多く自由度は少なく足踏みをすることが多く、本当に疲弊した。</p>
<p>ステージ について</p>	<p>計画当初では、音響設備を準備し、歌と楽器の演奏の団体をメインに考えており、ほぼ出演者交渉も確定していた。このことについては7月30日の議事録*4にも記載している。しかし、10月19日に行われた協働推進課永田氏が同席した第9回まちづくり委員会*5の席で、知立市側からマスクが出来ない演奏や歌の演目は、ビニールシートや衝立などの設備がないと認められないと突然通達され、十分な換気と観客との間の確保をしてでも認められないか申し出たが、却下された。</p> <p>予算のついていない委員会には購入資金はなく、感染症予防対策なので知立市で準備できないかとの打診には、持ち帰り検討することなく、その場で「準備はできない」との回答であった。開催まで2ヶ月を切っており、3か月前から準備を進め内定していたボランティアミュージシャンの方をお断りし、大変申し訳ないことをしてしまった。知立市に提示された「感染症対策設備なしで行うのであれば、マスク着用で行える楽器演奏及び演目」を条件に、新たに一から出演者を探し、回覧板作成ぎりぎりまで決定した。委員の知合いや、社協のボランティア登録を利用した。</p> <p>突然の申し出に加え、マスク着用、歌は禁止などの条件を快諾して頂いた出演者様に感謝したい。企画選択段階から出ていた、知立の歴史を知ってもらうという企画を組み込むために、歴史民俗資料館の学芸員の方に依頼をした。</p>
*4	<a href="https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/R3_machi_5.pdf">https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/R3_machi_5.pdf</a>
*5	<a href="https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/R3_machi_9.pdf">https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/R3_machi_9.pdf</a>
<p>結果○</p>	<p>【演目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 話したくなる池鯉鮒の歴史(講話)/一柳尚子様</li> <li>② アコーディオン演奏/知立アコーディオンクラブ</li> <li>③ マジックショー/知立マジッククラブ</li> <li>④ e-Sports ぶよぶよ大会/e-HR 1 部</li> <li>⑤ e-Sports ぶよぶよ大会/e-HR 2 部</li> </ol> <p>市長に来場いただき、ご挨拶いただく際の委員会と市長の立ち位置について判断が難しかった。私たち委員会は、市長から拜命したので、市長は運営側だという認識でいたので、ご紹介は身内の紹介ではないか？との問いかけに、「外部委託して招待いただく場合は来賓として紹介いただくことが多い」との回答に違和感を覚えた。条例により設立している委員会は外部委託だろうか？しかし、市長ご自身は、来場者記録の区分欄は運営に丸を付けて下さっていたので、認識としては同じだと感じた。しかし、同行した職員の一部の方はお客様に丸を付けていたので行政内部にも認識のずれがある事が確認できた。プログラム5番目は開催直前に出場できない事情が出来、4番目のe-HRさんに延長依頼をした。直前の延長依頼にも快く引き受けてくださり、ありがたかった。席の定員を40名とし、整理券も準備したが使うことはなかった。プログラムとプログラムの間は20分間の休憩を設け、その時間を利用して換気を行い、感染予防に努めた。講話に音楽にゲームと、幅広い年代向けのプログラムが出来、また楽しんでいただくことも出来たので、コンセプトを果たせたと感じる。知立市判断で声出しは不可だったので、本来ならば歌アリのアコーディオンクラブ様には、演奏のみの心苦しいお願いにも快諾して下さり、本当に有難かったし、貴重なアコーディオンの音色に、ハミングしながら聞き入る来場者の方の様子がとても嬉しかった。e-Sportsは誰でもできるゲームを選んで頂いたので、盛り上がったが</p>

	<p>子どもたちは興奮すると、密着してしまったりと、ソーシャルディスタンスが難しかった。コロナ禍における子供が参加するイベントの難しいところだと感じた。</p> <p>個人的には一柳様の講話を観客席側でじっくりもっと聞きたいと思った。あれほどの知識と話術で行われる知立の歴史は大変興味深く、30分ではもったいないくらいであった。来場者からも、もっとたくさん聞きたかったし、知立城の御城印も気になるので、今度資料館に行ってみたいとのご意見を頂き、大成功だったと言える。</p>
マルシェについて	<p>企画選択会議の段階でマルシェの案は出ており、まつりの要素があるので、組み込んだ。商品は「手作り小物」「農作物」とした。事前に保健所に食品を販売することに関して問い合わせ、お菓子やパンなど、調理したものの販売は衛生管理の観点から好ましくないとの回答だったので、食品は商品から外した。マルシェの販売は「出品依頼」「商品管理」「販売業務」があり、準備段階から当日の販売までスタッフの人数が多数必要なため、新林町生涯学習手芸クラブの代表者の野村様にご協力を依頼し、部会を設立して運営を手芸クラブの皆さんに依頼し、快く引き受けて頂いた。皆さんが活動で作られている作品や、お知り合いへ依頼し、クラフトバンドやマスク、アームカバー、トールペイントやレースなどの手作り小物を出品して頂いた。また、農業をされている町民の皆さんに依頼をし、新鮮野菜や玄米や穀物などを出品して頂いた。鮮度の落ちないものは、前日準備で搬入して頂き、値付け作業を進めた。朝採れ野菜などは本番当日の朝に搬入し、販売しやすいように袋に入れ、値札を付けた。入り口から好きな商品を選んで頂き、一番奥の精算所でまとめて清算するようにし、取り違えや混乱が無いようにした。一部の出品者の中には売上金の寄付を条件に出品依頼を引き受けてくださる方が居たので、基本は売上金を次の活動に生かすための材料費などにして頂く為に出品者に返金を原則とし、寄付を申し出た出品者の方の売上金は、当日会場をお借りした新林公民館敷地内にある新林神明社と、パネル展示で参加した知立ねこの会へ半分ずつ寄付することとした。</p>
結果◎	<p>【出品数 238 品目】(野菜 171 小物類 67)【売上 36,100 円】(うち、寄付額 11,000 円を知立ねこの会 5,500 円、新林神明社 5,500 円按分) 新鮮野菜も手作り小物も破格の安価とクオリティに野菜はほぼ完売、小物も半分以上売れ、大成功といえる。来場された方にも、大変喜んでいただき地産地消で笑顔に溢れた会場となった。また、野菜の品目にはデストロイヤーやスイスチャード、お化けキャベツなど見慣れない野菜も並び、そのことで「どうやって食べるのがおいしいのか?」「どんな野菜なのか?」など、会話が弾み、コロナ禍で沈んだまちの人に笑顔を!というコンセプトを果たせたと感じる。また、手作り小物に関しては、私自身手仕事が好きなので作業工程や材料費などを理解しているが、度外視の価格で販売して下さったり、このまつりのためにわざわざこしらえてくださったものもあり、本当にありがたく、買い物客も見事な作品に触れ楽しんでいただき、気に入ったものは安価に購入され喜んでいただけた。また、マルシェ部会スタッフとして参加くださった手芸教室の皆さんは大変な陳列作業も率先して協力しながら働いて頂き、また今回の参加も「販売はとても楽しくいい経験が出来た」と喜んで下さり、「今後町内でも出来たらいいな」と意欲的な感想を仰っていただき、ここでもコンセプトを果たせたと感じるとともに、ご尽力いただいたことに感謝いたします。</p>
パネル展示	<p>日頃地域の皆さんが知っているようで知らない暮らしに役立つ情報を知っていただくために、本当は誰でも当事者になりうるけれど、健康で不自由のないうちはなかなか興味が向かない社会福祉協議会の役割をしていただくために知立市社協に展示依頼をし参加いただいた。知立ねこの会は、5年ほど前に新林公民館周辺で無責任な餌やりをする人が増</p>

	<p>え、ねこの増加から不衛生になり困っていた事から、TNR 活動で不幸な猫を増やさないように活動を始め、活動のおかげで幼猫の危険な繁殖や、増えすぎて住民の迷惑になることで住民から愛されない不幸な猫が減り、公民館を訪れる人の癒しとなる地域ねことして存在するようになった。地域と猫が共存できる「やさしいまち」を新林町の方に知っていただき、今後も温かく見守っていただくために参加して頂き、活動に賛同して頂ける来場者から募金活動をした。本年度新林町内会から独立設立した、新林町防災会では、新林町防災まつりの計画があったが、感染症拡大の懸念から中止になっていたため、その時に使用する予定であった豚汁の無償提供を申し出ていただいていた。豚汁の無償提供も保健所に問い合わせたが、保健所としてはその場の調理で無償提供ならば、ホームパーティーの一環を捉え、可能であるとの返答だった。市中でも、各地で屋外での飲食を伴うイベントは開催されており、新林町内会も知立市が OK ならば許可という返答を頂いていたが、知立市の判断として、飲食を伴う行事を許可できないとの事で断念した。</p>
結果○	<p>防災会豚汁について許可が出なかったのは、市民として非常に残念な判断であり、遺憾でもある。コロナ禍に関係なく、30 年間の間に 80%の確率で起こると言われている南海トラフ地震は明日起きるかもしれない。その時、行政はどうするのだろうか？形ばかりの防災訓練を実行しても意味がない。いざその日が来れば、住民が手を取り合い、炊き出しをして寒さや空腹を満たさなくてはならない。その時に初めて、「住民だけで協力し、感染症対策をしながら炊き出しをなさい」といわれても、出来ないのだ。何事も日頃の備えと訓練が必要なのである。今やらずに、いつやるのだろうか？これが、知立市の長である市長が直々に任命した「まちづくり」の研究なのだろうか？安心して安全なまちをつくるのが、私たちまちづくり委員会の研究の根幹のはずが、とても残念でならないし、いざという日が来たとき、知立市がどんな対応をされるのか？非常に懐疑的な気持ちである。行政は知立市を「安心して安全なまち」にするために、いつ何をしなくてはならないのか？を認識して頂きたい。当日、新林町防災会様からは備蓄品の保存食や長期保管保存水を、安心安全課からは防災マップなどを提供して頂き、町民の皆さんに日頃の備えは自分自身でしてほしいとの啓発が出来た。知立ねこの会では来場いただいた方々の温かい気持ちがたくさんの募金を集め、募金額は 7,548 円であったと報告いただいた。交通事故で入院している猫の為に使わせていただくと、報告があった。狙い通り、新林町がやさしい町であると再確認できた。今後もこの活動が住民のこころの栄養になるよう、行政も後押しを是非して頂きたい。本来ならば、保護猫や TNR 活動は行政がやらなくてはいけない問題である。猫の増加による地域の汚染による衛生問題や、住民トラブルのもとになっている迷惑な餌やりをする人への注意などの問題に向き合い、行政は知立市を「うつくしいまち・やさしいまち」にするために活動してくださっているボランティア団体に活動に必要な補助金を出し、また啓発活動を共にしてほしいと思う。5 年前の新林公民館の猫たちの糞尿による悪臭や、餌やりをする人のマナーの悪さなどの惨状を知る私としては本当に頭が下がる思いでもあるし、心から感謝する。不幸なねこを少しでも減らし、地域ねこを優しく見守る住人との共存を心から望む。</p> <p>社会福祉協議会への興味を示す人が少なかったように思う。事前会議への参加の依頼もしていたが、参加できないとの返答で全体の雰囲気は書面でしかお伝え出来なかった。聞かれるのを待っているというスタイルではなかなか興味を持ってもらえないことがわかった。社協そのものに対する市民の反応のようだと感じた。本年度福祉策定委員も拝命しているので、反映しようと思う。</p>

# まちづくり委員会について

① まちづくり委員会の任をどのような経緯で就任したか	協働推進課より、就任についての打診があり、その時点で新林町に防災会を新規設立した年でもあり、新林町防災会書記、(現在は副会長も兼任)に加え、知立市制 50 周年委員(現在はコロナ禍において継続審議をされ、55 周年に移行することが決定したので、解散した)も拝命していたことから、一旦は「ほかの方をお願いしてほしい」とお断りしたが、再度「他に就任して頂ける方が見つからない」との依頼で困っておられる様子に気の毒に思い、お引き受けした。
② まちづくり委員会に就任する前と後の認識のずれがあったか。	今まで携わせて頂いた、「知立よいとこ祭り準備委員」「知立市制 50 周年記念事業」「知立市選挙期日前投票所の立会人及び啓発活動」「知立市地域福祉計画策定委員」などの活動の際、必ず市の職員さんと共に活動・協働してきた。ほとんどの場合は、事務的な作業は市の職員が行い、委員は忙しい時間をやりくりして会議などに参加し、議論を重ねたことを実行するのが常である。募集要項にある“ <b>市民主体の自主研究組織</b> ”が「予算はない」「知立市職員は参加しない」という意味とは思わなかった。研究そのものは市民自身でというスタイルで問題ないと思うが、多くの世代をこの委員会に反映したいと思うのであれば、会議室の予約であったり、議事録の作成であったりを委員が担うのは負担でしかなく、委員会の本質において必要な事ではない。
③ まちづくり委員会として本年度活動し、来年も継続の意思があるか	ない。
④ まちづくり委員会の委員として活動し、家族や友人などに就任を勧めたいか	勧めない。
⑤ ③、④の回答についての理由は何故か。	<p>③負担が大きすぎる。何か行動を起こそうとしても、予算が無い為無償提供先を依頼する手間やわざわざ協働推進課に書類やポスターの依頼などをしなければならず、仕事や生活の隙間時間に作業が出来ないなど、研究の妨げになることが多かった。普通の生活をしている市民にとっては時間の制約もある事から資金集めなどは難しいしハードルが高い。ましてや、コロナ禍という特殊な状況下で行わなくてはいけない感染症拡大予防に講じる物品ですら市民負担となると、初めからこの事実がわかっている場合、手を挙げるのは難しい。</p> <p>また、公民館の予約などの変更手続き・回覧板の差し込みなど、協働推進課でできる事をわざわざ連絡してきて「自分たちでやれ」という態度が非常に腹立たしい。公民館の使用場所の変更は、どこも空いていないので取った会場が使ってほしくない場所だったとの事で、連絡があったものであった。市の職員は自身の目の前に開いている PC のボタンを押すだけ。それをわざわざ委員長に連絡して、変更させる行為は無駄に思えて仕方がない。委員会が発行した回覧板を町内会の依頼回覧物に差し込むのは、町内会向け回覧板発信業務を担っている協働推進課が目の前にある山に差し込むだけである。「市民の手でや</p>

	<p>るのが原則だ。印刷はこちらですから、取りに来て直接町内会に申し込むように。どうしても無理ならばやらないことはないけれど。」という態度に呆れてしまった。これでは、委員を申し出た方々のように意欲ある市民でも萎えてしまう。協働推進課の方は業務中に連絡をされているが、参加されている市民の方も、ほぼその時間は仕事であったり、学生であれば授業中である。そのことを忘れてはならない。それが出来ない市民は参加が出来ないというのであれば、ほとんどの市民はまちづくり委員会に手を挙げることはできない。私も仕事上のわずかな食事時間を削って 5 時には連絡が取れなくなる市役所に電話をかけることに大きな負担を感じた。(メールでも良いが、メールは時としてニュアンスが伝わらないことがあるため、相談事や質問は直接か、通話が好ましいときもある) 回覧板を取りにくるように言われても市役所が開いている時間に行く時間がない。友人に頼み、迷惑をかけてしまった。目の前の山に挟むだけという事実を知っているだけに、本当に萎えた。</p> <p>④ よって、こんな思いを他の誰にもさせたくないのも、今の環境を続けるのであれば、まちづくり委員になるのはやめておいた方がいい。そう伝えます。</p>
<p>⑥ 平成 17 年に発足し、当初は最高で 26 名、平均して 16～7 名いた委員も、平成 29 年から一桁になり、本年は 6 名であった。(H24.25 は“無作為抽出による審議会などの公募委員候補者名簿”利用) このことについて、活動への影響はあったか。</p>	<p>委員の人数は知立市が集めた人数でスタートする。今年度はスタート時点で 6 名。(のちに 5 名)かといって、足りない分を補填することなく。これではできる事に制約が出来る。この部分の協力を仰いでも、考えるそぶりもなくすべて市民の手で。とその場で突き返してくる態度に、やる気がそがれる。協働と謳うのであれば、一度持ち帰り、検討するのが筋ではないのか。15 名の定員を設けているのであれば、近似の人数を集めるべき。集められないのであれば、職員が補填要因として参加する、協力団体に委託するなどを講じるべき。実行するにあたり、一人にかかる負担が大きくなりすぎる事と、病気や事情などで委員が退任した時に非常に困る。また、本年は大学生や市外住民、土日出勤、夜間は外出しづらい、変則勤務など制約の多いメンバーで構成されていたので、全員がそろそろ時間が極端に少ないのと、コロナ禍で公民館の使用時間制限があるなど、運営そのものが大変であった。よって、議論の場が SNS グループ内になりがちで、意思の疎通がかなり難しかったと感じた。</p>
<p>⑦ 多くの市民が自主的に参加したいと思え、楽しく活動するには現在のあり方は適当であるか？ 不適当だと思う場合はどうあるべきだと考えるか。</p>	<p>応募要項*6には「満 18 歳以上（令和 3 年 4 月 1 日現在）で、市内在住、在勤または在学している人」とあり、市民のみならず知立市に携わる人であれば参加できるようになっているのは、よいことだと思う。次の点は不適当に思う。</p> <p>① 募集要項にも、応募用紙にも「<b>まちづくり委員会は、“市民主体の自主研究組織”として活動を行う上で、市民の手でできる知立市のまちづくりについて研究をして、最終的に市長にその研究内容を報告していただきます。そのため、会議の進行、日程調整、企画運営、資金調達、人材集めなど必要な事柄を委員会主体で実施しなければなりません。また、委員会の会議内容は原則公開なので、事務局に会議内容をご報告いただく必要があります。</b>」という内容は記載されていない。この内容を拝命する前に知ることができるのは、<b>知立市ホームページ TOP→市政情報→まちづくり計</b></p>

画→市民協働→まちづくり委員会→～前年度まちづくり委員会の内容まで開かないと出てこない。すなわち、パソコン通信に疎い人は知ることはできない。知立市も【活動に対する認識合わせ】\*7における【まちづくり委員会との認識すり合わせの内容に対する市の回答】\*8(以後【市の回答】)No.1でも「…これらを根拠とし、辞令交付の後にご説明いたしましたとおり、会議の進行、日程調整、企画運営、資金調達、人材集めなど必要な事柄を委員会主体で実施していただくこと」と回答している通り、ほとんどの委員が拝命を受けた後に受ける説明の中で知られる。このような募集の仕方では、委員を務めたものは「思っていたのとは違った！」（これは今年度の委員全員が辞令の席で口々に出た感想）「楽しいから一緒にやろう！」と言う者も、「楽しいからずっとやってるんです！」と言う者もいなくて当然だとも思う。これを記載したら誰も応募してくれないだろうと思ってわざとしていないようにしか思えない。

- ② 予算を取る意思が全くない。条約にも、提言書にもまちづくり委員会の内容について、予算は取らないなどとは決まっていけないのに、【市の回答】No.1,9,11,14では度々「お金がかからない方法で」と出てくることから、予算計上されないように、または市民や企業から費用を出させるように誘導しているように受け取れる。必要な予算は取ればいいし、市民の税金はそもそも「よりよいまちづくり」の為に納められている。委員会の研究がそれに相当するものであるならば、予算として組めばよい。実際実績として、平成20年度のまちづくり委員会環境部会は協働推進課に緑化運動費用として、活動の為にベストの購入、サンパチェンスの定植の為に苗や用土などの購入費として319,000円の予算\*9を申請し、翌年それが実行されている。この実績が有るため、予算計上は可能なのだから、知立市がいう「資金調達をせよ」というのはルール捏造であるように感じる。
- ③ 会議に知立市が参加しない為、会議で決まった内容が覆されその時間自体が無駄になってしまう。会議に参加すれば、議事録は協働推進課が取ればよいし、議事録を委員がつくらなかったとしても、市民活動であることには変わりがない。委員全員PC入力が不得手な場合もありうることから、議事録の公開は市民の代表としてまちづくりを研究しているので公開は重要だと思うが、それを委員が必ずやるという事は重要ではない。また、本年度の担当者の永田氏が「知立市」の意見としていわれた「市が参加すると市民が育たない」という言葉は、熱意をもって参加する委員に対して非常に失礼な発言で遺憾に思う。市の担当者が会議に参加すれば、事実確認等を後で問い合わせる必要もなく、時短に繋がる。市が会議に参加しても、市は会議に口を出すことはなく、意見を求められたときのみ発言し、自らが発言するときは、明らかに市の方針として認められないときのみ留めておけばそんな事態にはなりえない。また、委員が市に頼り切るような行為や発言があった場合は毅然と断ればいだけである。議事録作成も必ずしも委員がやるべき仕事内容ではなく、その時間を議論や行動の為に使った方が有効である。
- ④ 参加人数が少なすぎるため、やる気があったとしても負担が大きくモチベーションを保てない。知立市は人材集めも委員自ら行うようにいうが、そもそもの委員の人数を揃えないのは知立市の方である。活発な意見と活動の為に最低

	<p>限の委員の数が必要である。自身らの努力をせずして、委員にその任を押し付けている。そもそもの委員の人数が多ければ、委員一人一人が協力者を募ることで活動協力者を増やすこともできるが、そもそもの人数が少ない為、大変な苦勞を強いている。</p> <p>⑤ 各年度の報告書はまちづくり委員会のページで確認できるが、それに対するアンサーはなく、ただ研究をさせただけの一方通行になってしまっている。提言書には「市の施策等に反映するよう努めるともに対応について委員会に報告する」とあるが、報告された内容が確認できない。ただ単に条例に載っている「まちづくり委員会」と言うものを実行しなくてはならない為に設置されているように感じた。</p> <p><b>このことから、知立市が<u>任命後</u>に委員に通達している</b></p> <p><b>会議の進行、日程調整、企画運営、資金調達、人材集めなど必要な事柄を委員会主体で実施しなければなりません。また、委員会の会議内容は原則公開なので、事務局に会議内容をご報告いただく必要があります。</b></p> <p><b>という内容そのものが、「楽しくまたやりたい！と思えるようなまちづくり委員会」を妨げており、不適当である。</b></p>
*6	<a href="https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/2/202101_12.pdf">https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/2/202101_12.pdf</a>
*7	<a href="https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/R3_machi_ninshikiawase.pdf">https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/R3_machi_ninshikiawase.pdf</a>
*8	<a href="https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/kaito.pdf">https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/kaito.pdf</a>
*9	<a href="https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/H20_teigen.pdf">https://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/3/H20_teigen.pdf</a>
⑧ 自由記述	<p><b>私は、現在の以下の活動条件を廃止し、見直しを提言します。「まちづくり委員会は、“⑧市民主体の自主研究組織”として活動を行う上で、市民の手でできる知立市のまちづくりについて研究をして、①最終的に市長にその研究内容を報告していただきます。そのため、②会議の進行、③日程調整、④企画運営、⑤資金調達、⑥人材集めなど必要な事柄を委員会主体で実施しなければなりません。また、委員会の会議内容は⑦原則公開なので、事務局に会議内容をご報告いただく必要があります。」</b></p> <p><b>【見直し後活動条件(案)】</b></p> <p>① 研究内容の報告は研究が終了した時点で行い、必ずしも年度末に行わなくてもよい。年度をまたぎ、再任することを妨げず、また単年希望者は年度末に退任するのも自由である。但し最低任期は原則として1年とする。報告した内容が市政に生かされたかを確認する。</p> <p>② 会議の進行は委員長・副委員長が行う。</p> <p>③ 日程調整は会議内で行う。もしくは後日 SNS グループなどで調整する。</p> <p>④ 基本的な会議場所は使用料を市が負担できる施設とし、予約システムを利用するか、帰りに窓口に寄り申請をする。</p> <p>⑤ 資金調達は本当に必要であるか議論と吟味をし、判断に迷う時は専門家に助言をもらうなどして決定し、必要であれば来年度予算を取って、翌年以降実施する。</p>

- ⑥ 知立市はまちづくり委員の定員を確保することに努め、委員に活動の負担を強くないようにする。多ければ、調達不足の場合は職員の協力者もあたる。
- ⑦ 会議には議事録を取る目的と、助言や確認を求められたときのみ発言するために、事務局が1名参加すること。原則事務局は記録係に徹し、議論や研究には参加しない。
- ⑧ 委員は、知立市民の代表者として研究に携わり、「市民主体の研究組織」であることを念頭に、「市民のできるまちづくりの創造」に努める事。任期中は欠席や遅刻や役割分担の放棄などがないよう最大限努力し、積極的に活動をすることで、委員間の負担を平等に分担するように努める事。

以上

市長にお尋ねしたい。市長は、現在のまちづくり委員会の現状をどう思っているのでしょうか？まつりの当日「この広がり新林町から知立各地に広がり全国のモデルとなっていくようなまつりになっていければと願っております」と仰いました。わたくしたちも同じ思いで今日まで活動してきました。まつりそのものはたくさんの方のボランティア精神を持った委員やご協力者様のおかげで本当に笑顔に溢れるよい体験をさせていただき、感謝いたします。しかし、その反対に「まちづくり委員会」に参加したことは、後悔しかありません。途中で仲間を失った悔しい思い。行政からの数知れない失礼な言動と理解に苦しむやり方に、周りからは「なぜそこまでして続けるの？やめた方がよい。時間の無駄で心の消費である」と言われながらも最後まで続けて来たのは、一つは期待してくれた新林町の皆さんをがっかりさせたくないこと。もう一つは、ゴールしないと、この惨状を皆さんに伝えられないからです。どうか、この「まちづくり委員会」を形骸化した無意味な委員会にしないでいただきたい。子どもたちが、「このまちに住み続けたい、出ても帰ってきたい」そう思えるようなまちづくりをしてくださる未来の「まちづくり委員」の方々が心から参加してよかったと思える委員会であってほしいと心から願ってやみません。また、知立市民の気持ちを行政に繋げる役割である市議会議員の方にも、この現状に目を向けて頂きたい。知立市はボランティアを「ただ働きしてくれるひと」にしてはいけない。どうか、こころある市民の方がボランティアを楽しめる、福祉にあふれたやさしいまちづくりにご尽力いただきたい。失礼を承知でご意見させていただきました。委員のみんな、ありがとう！ゴールです。